

2024年前期

インティグリティ講習会

2024年6月
埼玉県バスケットボール協会
U12カテゴリー部会



レジメ

- はじめに
- 2023年度後期 インティグリティ講習会 集計結果
- インティグリティ事案の発生状況
- JBAによる懲戒の状況
- グループディスカッション

はじめに

～ 2024年度、取り組み方針 ～

U12カテゴリーに関わる全ての人（選手、指導者、審判、保護者、部会役員、観客など）がインテグリティの精神を持つことでミニバスケットボールの価値をより高めていく

はじめに

～ 各チームに求めるもの ～

以下、3項目への取り組みおよび改善

- ① 精神的にも未熟である選手たちに高圧的な態度で人格を否定するような言葉を使わない指導を考え行うこと
- ② 自分の感情をコントロールする力を身につけること
- ③ 第三者が不快と感じる振る舞い（行動、行為）を取らないよう注意すること

抜粋版

埼玉県バスケットボール協会 U12カテゴリー部会

2023年度後期

インティグリティ講習会 集計結果

2024年 6月

埼玉県バスケットボール協会

U12カテゴリー部会

総評

2023年6月の講習会后、**インテグリティへの意識は高まり、指導者において言葉遣いや態度といった行動や振る舞いを見直され**、また、インテグリティに対する**理解や共有もチーム内で進み始めている**ことが伺える。

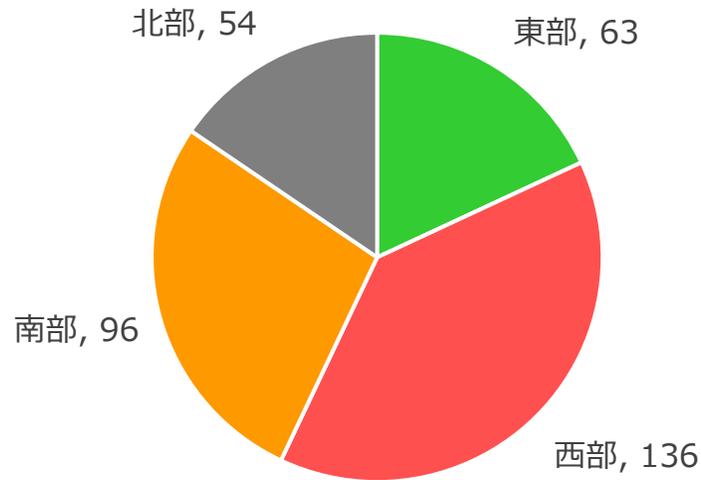
今回の講習会では「**インテグリティの再認識**」をテーマとしたが、コメントや講習会への評価から**十分再認識して頂けた**と考える。一方で、有効度の評価が理解度や共感度ほど高くないことから、**講習会が有効であるかはこれからの取り組み次第**であると認識できる。

また、今回、保護者にも参加して頂いたが、「インテグリティという言葉が知らなかった」等の意見もあり、**保護者への情報提供、情報共有も必要**であり、**保護者の意識改革も重要課題**であると認識できる。

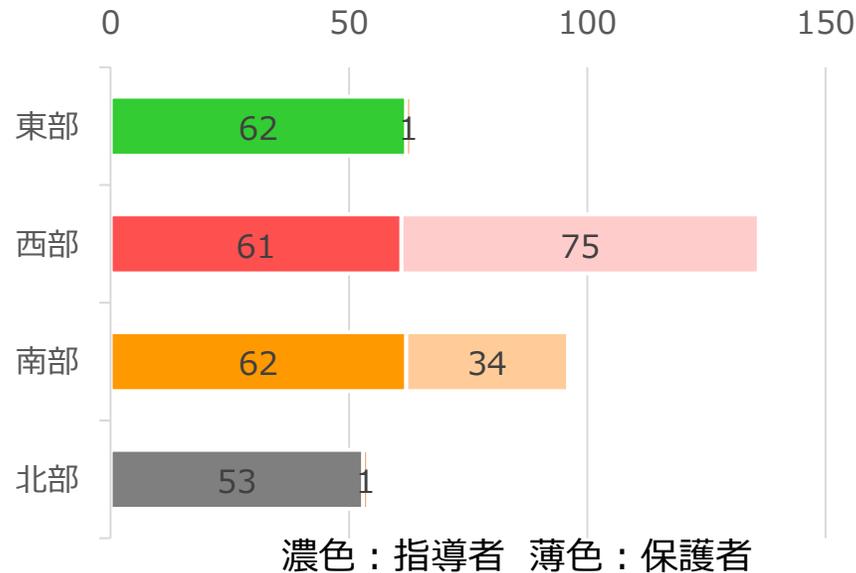
今後としては、**インテグリティの重要性を周知および指導者および保護者の意識改革を促しつつ、「子ども達への接し方や言葉の伝え方」等の学びを指導者、保護者とも定期的に、継続的に取り組んでいく**必要がある。

インティグリティ講習会 アンケート回答状況

アンケート回答者数



アンケート回答者数 (立場)



開催月日・場所

地区	月日・場所
東部	11/25 (土) ウイングハット春日部
西部	11/25 (土) 川越運動公園総合体育館
南部	1/14 (日) さいたま市民会館いづつき
北部	11/18 (土) 寄居町総合体育館

11月18日から1月14日に渡って支部毎に開催。

参加者からのアンケート回答数は349件 (前回比：+95件)

保護者からの回答数は111件

※東部は会場の都合により参加者は指導者のみ
 ※西部支部は講習会の中でアンケートを回収

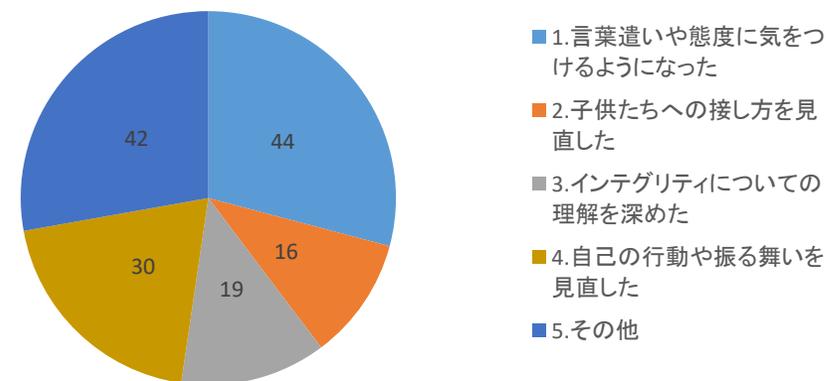
前回講習会後の変化

Q. 前回の講習会后、ご自身のインテグリティについて変化はありましたか？（必須）

1. 指導者の変化

- **言葉遣いや態度に気をつけるようになった:**
 - 言葉の使い方や立ち振る舞いに気を使うようになった。
 - 審判へのアピールを抑えるように意識するようになった。
 - 試合中の声かけを褒めることを意識するようになった。
- **自己の行動や振る舞いを見直した:**
 - 自己の振る舞いを再認識し、子供たちの成長を支える大人として一人ひとりを大切にすることを意識するようになった。
 - 感情的にならないよう一度整理することを意識するようになった。
- **その他:**
 - 時代に合わせて変化する指導法を再認識した。
 - インテグリティの理解を深めた。

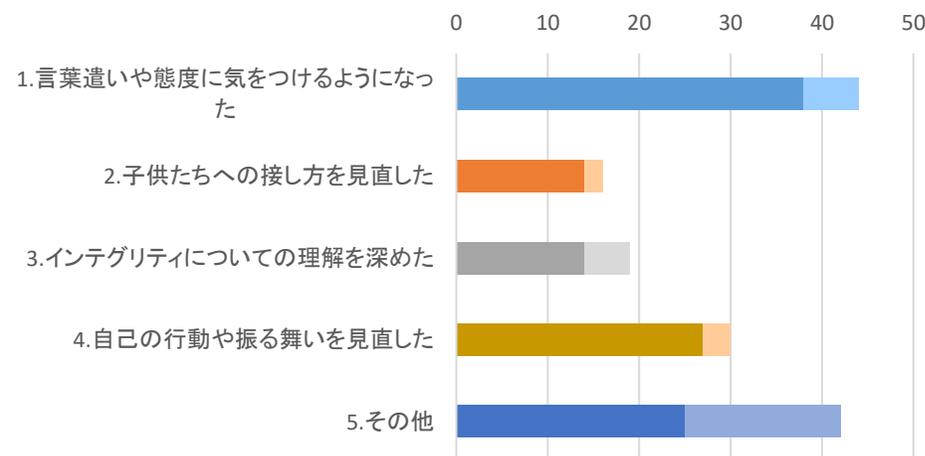
前回からの変化



2. 保護者の変化

- **インテグリティについての理解を深めた:**
 - インテグリティの言葉を知らなかったが、講習会で知ることができた。
 - 影響の輪を広げることが大切だという理解が深まった。
- **自己の行動や振る舞いを見直した:**
 - 他の保護者からの意見を受け、自分自身やその周りをまず変えることを意識するようになった。
- **言葉遣いや態度に気をつけるようになった:**
 - 言動、姿勢に気をつけるようになった。

前回からの変化



濃色：指導者 薄色：保護者

インテグリティについての再認識

Q. インテグリティについての再認識はできましたか？

Q. 再認識した内容、または、再認識できなかった理由を教えてください。（任意）

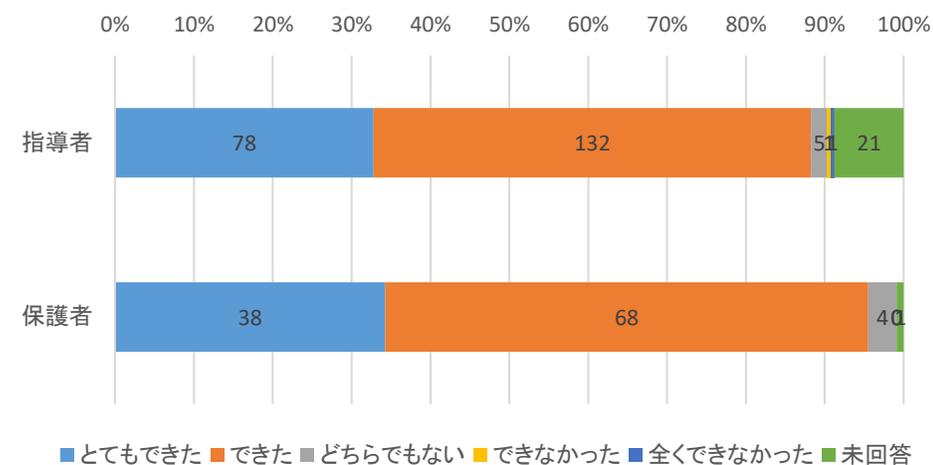
1. 指導者の再認識

- 暴言・暴力だけが問題ではない：**その子どもを大切にすることが重要**である。
- 熱くなりすぎない：強い表現を控え、**問題のある行動を再認識**。
- 誠実・真摯・高潔の確認：誠実さ、高潔さを再確認。
- 説明の徹底：**ちゃんと説明することの重要性**を再認識。
- 大人の振る舞い：**手本となるような行動**を取ること。

2. 保護者の再認識

- 所属チームのコーチに当てはまること：**所属チームのコーチの問題点を再認識**。
- 暴力暴言に加えて態度や振る舞い：**態度や振る舞いの問題を認識**。
- 時代の流れを理解：**厳しさと暴言の違い**を理解し、**時代の変化**に対応。
- インテグリティの浸透：バスケットボール、チームの質と価値を高める重要性を再認識。
- 大人サイドの変化：保護者と指導者の**意識改革の必要性**を認識。

インテグリティの再認識



講習内容への理解度、共感度、有効度

Q. 講習の内容についてのどのくらいご理解、共感頂けたでしょうか。
また、このインティグリティ講習は有効だったでしょうか。(必須)

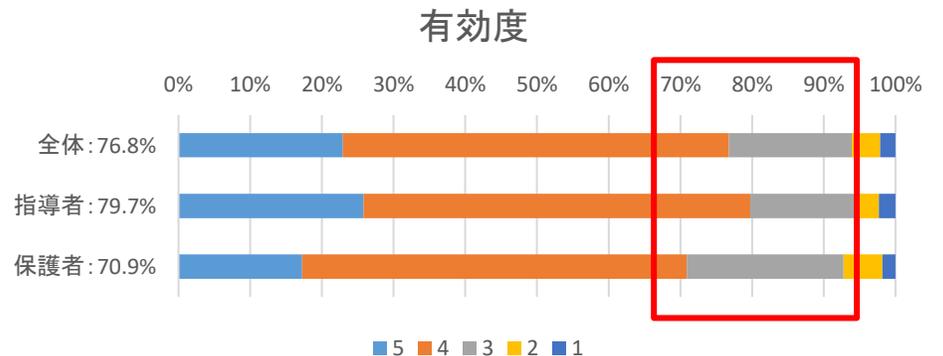
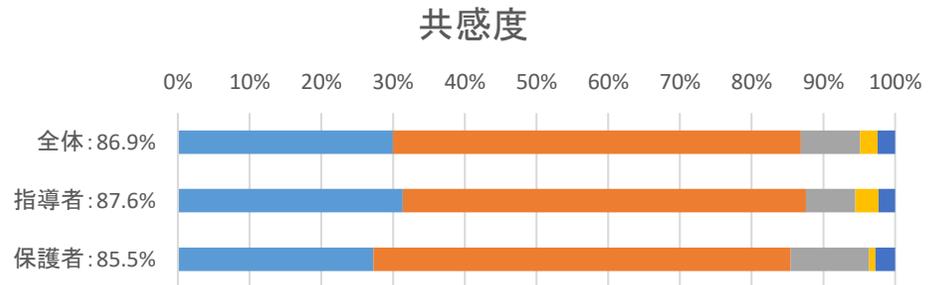
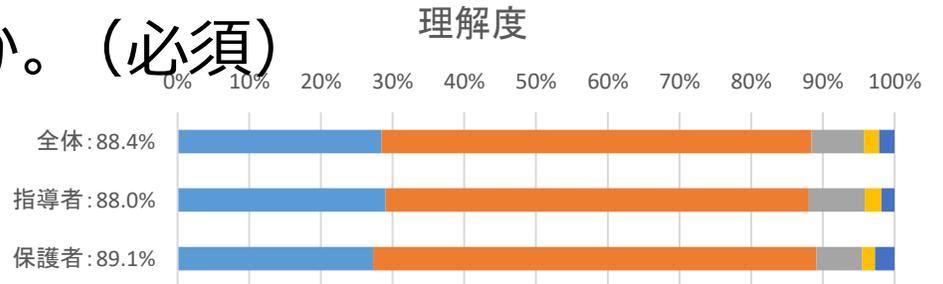
理解度、共感度、有効度とも高評価であるが、有効度は理解度、共感度より10pt程下回っている。特に指導者における有効度は80%程であるが、保護者における有効度は70%程に留まる。

1. 指導者の特徴と傾向:

- 理解度、共感度、有効度のすべてで高評価を付けている
- 回答理由からは、**受講内容を深く理解し、子供の成長につなげたい**という意識が強い
- グループディスカッションを通じて**他チームの方と考えを共有**できたことを肯定的に捉えている
- 指導者としての立場や責任を認識し、**子供への適切な関わり方を考えている**様子が見える

2. 保護者の特徴と傾向:

- 指導者と同様、理解度、共感度、有効度の評価が高い
- 自分の子供との関わり方を振り返り、**改善に向けて前向きな姿勢**が見られる
- 子供の成長に**保護者としての役割が大切**だと認識している
- 指導者との連携**の重要性を理解しており、保護者も含めた取り組みの必要性を感じている



- 5 : とても理解できる / 共感できる / 有効である
- 4 : 理解できる / 共感できる / 有効である
- 3 : どちらでもない
- 2 : 理解できない / 共感できない / 有効でない
- 1 : まったく理解できない / 共感できない / 有効でない

講習会へのコメント

Q. 今回の講習会についてご意見、コメントがありましたらご記入ください。（任意）

講習会に対して概ね肯定的な評価を頂いており、「とても分かりやすかった」「大変勉強になった」といった感想が多い。その上で「継続的に行ってほしい」「継続して人を変えていく必要がある」などの定期的な講習会の継続を望む声強い。また、インテグリティ(倫理的行動)の重要性を理解し、指導者や保護者に対するさらなる意識改革の必要性が指摘されている。

1. 指導者の特徴と傾向:

- 長年の指導経験を持つ一部の指導者にインテグリティ上の問題があるとの指摘がある。
- 指導者の言動や態度について、保護者から不満の声が上がっている。「暴言を上げるコーチがいる」といった意見がある。
- 一方で、指導の難しさや指導者の苦勞に対する理解も見られる。「人を指導するのは大変だ」との意見がある。

2. 保護者の特徴と傾向:

- 保護者の行動や言動にも問題があるとの指摘がある。「子供に罵声を浴びせる親がいる」といったコメントがある。
- 保護者にもインテグリティ意識の向上が必要だと認識されている。「保護者にもっと伝えてほしい」といった意見がある。
- 保護者と指導者の良好なコミュニケーションの必要性が示唆されている。

アンケートへのご協力

ありがとうございました！

インティグリティ事案の発生状況

2023年、県協会報告件数

10件 (U15含む)

ハインリッヒの法則 (ヒヤリハット)

- 1** : 大きなトラブル
- 29** : クレーム、苦情
- 300** : 外部への苦情がないため
見逃しているケース
= 実は不適切な事象

不適切な事象は3,300件になる計算
県内U12チーム数 = 456。2,000件をU12事案と
すると、1チームあたり年間4.4件の不適切な事象あり

減少していない！

JBAによる懲戒の状況

2023年、JBAによる懲戒状況（U12関連）（JBAの「懲罰の公表」参照）

決定日	懲罰対象者	懲罰の内容	事案の概要
2023年4月	U12クラブコーチ	資格停止：2年	・所属選手に対する暴力（肩を複数回押す有形力の行使） ・所属選手に対する精神的な苦痛を与える暴言
2023年4月	U12クラブコーチ	資格停止：6か月	所属選手に対する暴力（頬を平手で叩く有形力の行使）
2023年5月	U12クラブコーチ	資格停止：2年	・所属選手に対する暴力（背中を押す、腕をつかんで突き飛ばす等の有形力の行使） ・倫理規程違反行為を隠蔽する目的で書面を作成し、交付した品位を失うべき非行
2023年5月	U12クラブコーチ	2年間停止されている本協会の登録資格を、前回懲罰の満了日の翌日から更に5年間停止する	前回懲罰に従わず、所属選手に対してあからさまにベンチから直接バスケットボール指導を行った
2023年6月	U12及びU15クラブコーチ	資格停止：6か月	・所属クラブ選手保護者に対するセクシャル・ハラスメント行為 ・元所属クラブスタッフ複数名に対するセクシャル・ハラスメント行為
2023年6月	U12クラブコーチ	資格停止：3か月	審判員に対する暴力、暴言（審判員の胸につけられていた審判ワッペンをひきはがす行為等）
2023年7月	U12クラブコーチ	資格停止：9か月	・クラブ所属児童に対する暴言行為（存在を否定し、自尊心を傷つける発言） ・クラブ所属児童に対する暴力行為（肩を掴んで体育館の外に出す、背中を強く押す有形力の行使） ・クラブ所属児童に対する暴力行為（肩を掴んで体育館の外に出す、足で背中付近を押す有形力の行使）
2023年7月	U12クラブコーチ	資格停止：9か月	・クラブ所属児童に対する暴力行為（腕を引っ張って体育館から出す有形力の行使） ・クラブ所属児童に対する暴力行為（顔を平手打ちする、頭を水筒で叩く、頭部を手拳で叩く有形力の行使）
2023年11月	U12クラブコーチ	資格停止：3か月	・クラブ所属児童に対する暴言行為（人格を否定し、自尊感情を傷つける暴言）
2023年11月	U12クラブコーチ	資格停止：1年	・クラブ所属児童複数名に対する暴力行為（手で肩を押す、胸ぐらを掴み引っ張る有形力の行使） ・クラブ所属児童複数名に対する暴言行為（人格を否定し、自尊感情を傷つける暴言）
2023年11月	U12クラブコーチ	資格停止：3か月	・クラブ所属児童複数名に対する暴言行為（人格を否定し、自尊感情を傷つける暴言）
2024年1月	U12クラブ指導者	譴責	審判員に対する暴言行為及び執拗な抗議
2024年2月	U12クラブコーチ	資格停止：6か月	クラブ所属児童複数名に対する暴言行為（人格を一方的に否定し、自尊感情を傷つける発言）

～ グループディスカッション ～

周りの人と 3～4人 の
グループを作ってください。

講習会のゴール

この講習会を終えたとき、受講者は

**U12カテゴリーにおける2024年度の
取り組み方針を認識し、重点3項目への
取り組みおよび改善を決意する**

ことができる。

～ グループディスカッション 1 ～

「高圧的な態度、人格を否定するような言葉」とは

意見交換：1人1分

発表・共有

青少年期の運動

気分やストレス耐性，自尊心を向上させ，不安や抑うつなどの精神的，情緒的障害の予防や治療に効果的 (Calfas, 1994).

過度で慢性的なストレス

海馬の機能低下を引き起こし、
活力の低下や抑うつ状態に
つながる可能性がある。

**低学年においては（楽しい）軽運動で
継続性を高め、海馬を鍛えながら
スタミナをつける方が得策かも。**

一方、体を使わず脳を鍛えようと脳トレに浸つても、ゲーム成績は向上するが論理的思考や短期記憶は向上しないという (Owen, Nature, 2010) .

『脳科学の立場から：運動で育む海馬の機能とたくましい心』（2011年：征矢英昭）

～ グループディスカッション 2 ～

**「感情的になりそうなとき」
そのときあなたは？**

意見交換：1人1分

発表・共有

アンガーマネジメント

怒りの感情をコントロールし、適切に表現する方法

怒りを適切にコントロールできないと、子供への言動に悪影響が出る可能性あり。
一方で、怒りを全く感じさせないのも良くない。
子供の行動に対して、適切な反応を示すことが大切。

アンガーマネジメントの例:

1. 深呼吸 - 感情が高まったら、深くゆっくりと呼吸をすることで、落ち着く。
2. 気分転換 - 一時的に子供から離れて、自分の気分を変える方法を取る。
3. 感情を言語化する - 「今、私は怒りを感じています」と自分の気持ちを伝えることで、感情をコントロールしやすくする。
4. 共感的傾聴 - 子供の気持ちに寄り添い、理解しようと努める。
5. ポジティブな自己暗示 - 「私は冷静に対応できる」と自分に言い聞かせるのも効果的。

～ グループディスカッション 3 ～

**「第三者が不快と感じる振る舞い（行動、行為）」
とは**

意見交換：1人1分

発表・共有

「ゲーム中のコーチによるプレイヤーへの 暴言、暴力的行為に対する対応方針（ガイドライン）」

【テクニカルファウルの対象となる振る舞い（行動・行為）】

1. コーチのプレイヤーに対する暴言

(1) 人格、人権、存在を否定する言葉

〈具体例〉最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様

(2) 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉

〈具体例〉役立たず、下手くそ、アホ、バカ

(3) 身体的特徴をけなす言葉

〈具体例〉チビ、デブ

(4) 恐怖感を与える言葉

〈具体例〉殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

2. コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）

(1) 殴る・蹴るなどを連想させる行為

(2) プレーヤーと近接（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為

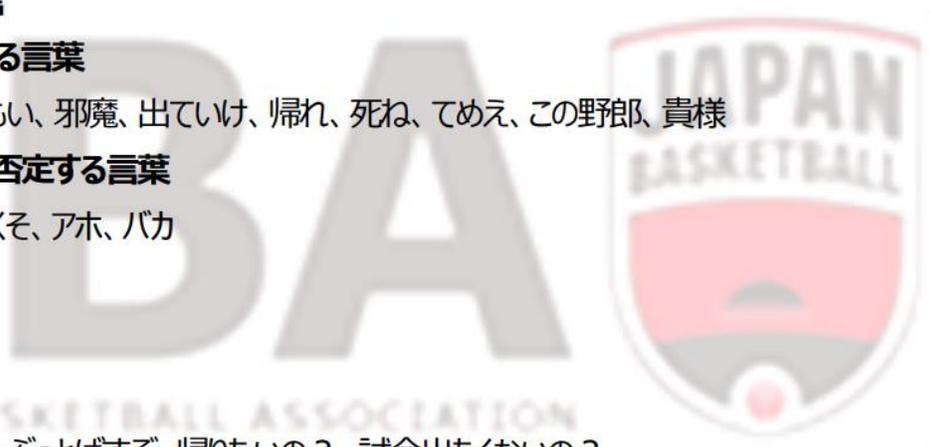
(3) 「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為

(4) 継続的、かつ、度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為

(5) 物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

3. 第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）

(1) 不潔な服装、裸足やスリッパでの指導



見苦しい振る舞い

NG

JBA プレーコーリング・ガイドライン（20230629）
【ガイドライン参考資料4】

**足を組んだらNGなのではありません。
横柄な態度、振る舞いが望ましくないのです。**



子供達が不快を感じている指導者の態度

- ➡ 携帯・足組み・ポケット
- ➡ 立ち振る舞い・伝え方

子供達はしっかり**大人の立ち振る舞い**をみていた

おそらく、自チームの保護者、対戦チームの指導者、保護者、審判、会場に居合わせる人達も…

再掲

～ 2024年度、取り組み方針 ～

U12カテゴリーに関わる全ての人（選手、指導者、審判、保護者、部会役員、観客など）がインテグリティの精神を持つことでミニバスケットボールの価値をより高めていく

再掲

～ 各チームに求めるもの ～

以下、3項目への取り組みおよび改善

- ① 精神的にも未熟である選手たちに高圧的な態度で人格を否定するような言葉を使わない指導を考え行うこと
- ② 自分の感情をコントロールする力を身につけること
- ③ 第三者が不快と感じる振る舞い（行動、行為）を取らないよう注意すること

講習会のゴール（再掲）

この講習会を終えたとき、受講者は

**U12カテゴリーにおける2024年度の
取り組み方針を認識し、重点3項目への
取り組みおよび改善を決意する**

ことができる。

「JBA バスケットボールファミリー安心安全保護宣言」

- 1.「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」暴力暴言を根絶します。【暴力暴言根絶】
- 2.リスペクト・フェアプレーの精神を推進します。【リスペクト・フェアプレー精神】
- 3.子どもの意見・発言を尊重し主体性を育みます。【子どもの主体性尊重】
- 4.コーチライセンス制度を充実・普及させ、良い指導者を養成・配置します。【指導者の資質向上】
- 5.子どもの成長のために保護者と連携します。【保護者との連携】
- 6.子どもの安心安全なバスケットボール環境を整備します。【セーフガーディング】
- 7.年齢・性別・障がい・人種等で差別のないバスケットボールファミリーを目指します。【差別をなくす】

バスケットボールファミリーの力で

